

と畜場搬入馬及び牛における志賀毒素産生性大腸菌 保菌状況調査

野中基弘^{1)†} 遠藤貴之¹⁾ 菅井 透¹⁾ 瀬戸順次²⁾ 大貫典子¹⁾

1) 山形県置賜食肉衛生検査所 (〒992-1125 米沢市万世町片子 5379-15)

2) 山形県衛生研究所 (〒990-0031 山形市十日町 1-6-6)

(2025 年 7 月 18 日受付・2026 年 4 月 3 日受理・2026 年 8 月 15 日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/8/79_e158/_article/-char/ja

要 約

2023 年 8 月～2024 年 8 月に所管と畜場に搬入された馬の盲腸便と牛の直腸便を採取し、増菌培養後、志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) の遺伝子検索を行い、陽性検体から菌分離を試みた。その結果、馬では 141 頭中 1 頭 (0.7%) から非主要血清群 STEC、牛では 226 頭中 24 頭 (10.6%) から同菌 (Og157:Hg7 1 頭, Og26 1 頭, 非主要血清群 22 頭) を分離した。また、牛の STEC 保菌率に時季による有意差はなかった。馬の STEC 保菌率は牛のそれに比べて有意に低く、と畜解体処理時における馬消化管内容物由来 STEC による馬枝肉汚染リスクは低いことが示唆された。一方、牛では時季を問わず STEC を一定程度保菌している可能性が示されたことから、と畜場は二次汚染対策を含めた衛生管理の徹底を常に図っていく必要がある。——キーワード：牛, 馬, 志賀毒素産生性大腸菌。

----- 日獣会誌 79, e158～e161 (2026)